準硬式野球部

高林 克日己

135周年記念によせて

準硬式野球部は昭和37年卒の杉岡昌明，塚田悦男，森豊先生によって創設された，135年の歴史の千葉大学の中では比較的新しいクラブになる。とはいってもそれからちょうど50年が経過し，様々な歴史が作られてきた。

硬式野球部という伝統のある野球部に対して，より同好会的なクラブを作ろうというのが当初の発想であったと聞いているが，定員が100名足らずの医学部で２つの野球部があるということは，当然優秀な選手を多数集めるのは困難であり，野球部が１つの大学に比べると戦力が見劣りしてどうしても東医体などでの優勝はできず，未だ久保長生投手（現東京女子医大脳外科教授）を擁したチームが為し得たベスト４が最高位である。しかし最近は硬式との練習試合や西千葉の準硬式の練習試合で勝利したり，西医体で常に上位の（西日本には準硬式しかない）金沢大との定期戦も，負けっ放しというわけでもない。さて準硬式野球部には当初は部長も存在せず，硬式野球部の高橋英世名誉教授が長い間部長代わりになってコンパになるとやってこられたものであるが，故渡辺昌平名誉教授（呼吸器内科）が初代部長となり，その後磯野可一元学長（第二外科）が引き継いだ。第三代の若新政史名誉教授（卒後研修部）以降はOBが務めていて，第四代落合武徳名誉教授（第二外科）のあと，現在は五代目として高林克日己教授（企画情報部）が部長を務めている。

そしてこのクラブは野球はともかく，多くの教授を輩出してきた。上記の先生方の他，崎尾秀影獨協大教授，安田耕作獨協大教授，小俣政男東大教授，礒辺啓二郎千葉大教授，住田孝之筑波大教授，内山勝弘帝京大教授，杉田克生千葉大教授，杉原茂孝東京女子医大教授，橋本尚武東京女子医大教授，村上康二慶大教授と多数の教授を輩出している。とくに千葉大のみならず，現役の東大，慶大の臨床教授を擁するのは準硬式野球部の誇りである。そして多くの諸先輩が病院長として，あるいは第一線で大活躍されていて，その絆は強いものがある。今年（2010年）は伊江朝次沖縄県病院管理事業者，潮平芳樹豊見城中央病院が某医学雑誌の表紙を大きく飾ることとなった。この中の記事にも写真にも当クラブが登場するのは嬉しい限りである。昨今は看護学部を中心としたマネージャーが男子に負けず多く入部して，昔とはクラブの雰囲気が大きく変わったが，先輩が常に後輩に優しく面倒見のよいのが50年間変わらないこのクラブの伝統であろう。高根宏先生がロッテマリーンズの副応援団長ということもあり，マリーン球場でOB戦をすることも定期的になっている。

（たかばやし　かつひこ）

マリンスタジアムでのOB戦

2010年のOB会（ミラマーレにて）